

2004・平成16年

復習用現代語訳

楚その人は虎を「老虫」と言い、呉ごの人は鼠ねずみを「老虫」と言う。私が呉の長洲県の知事となり、用事で呉の婁東ろうとうに行つて宿屋に泊つた（時のこと）。あかりを消して寝ると、急に食器ががたがたと音をたてる。その理由をたずねると、門番の少年が「老虫です」と答えた。

私は楚の人間なのでひどくあわてて言った。「どうして街中まちなかでこのような獣けもの（虎）がいるのだ。いるはずがないだろう。」少年は「そのような猛獣（虎）ではありません。鼠です。」と言う。私が「なぜ鼠を老虫と呼ぶのだ？」とたずねると、少年は「呉の言い方として昔からそう伝わっているだけです。」と答えた。なんということだ！鼠が「老虫」の名を騙かたり、そのせいで私はあわてて逃げようとしたのだ。まったく大笑いだ。

しかしながら今、虚名を騙かたつて人々を驚かす者は天下に少なくな  
い。政堂において、きらびやかな礼装に身を固め、官職を示す印を  
たくさんつけその綬くみひもを長々とたらし高位の文官たちは、はたし  
て悪を防ぎ、権威にひるまず、不正な権力を取り締まることができ  
るのか。軍営において、飾りたてた兜と大剣で武装し、左手に鉞まさかりを

つかみ、右手におおはた纛をかかえる武官たちは、はたして国内の盜賊に  
対抗し、昔の英雄のごとく辺境の異民族を撃退することができるの  
か。いきなりその職名を聞くとそのおどろおどろしいこと、まるで  
虎と同じだが、じっくりとその力量を確かめると、鼠の技にほかな  
らならない。読者よ。能力が鼠のくせに虎の名をかた騙って民の上に立  
つ者がみんな鼠レベルである今、わが国の政治を憂慮しなくてよい  
のか！ ※筆者江盈科が死んで39年後、彼の仕えた明朝は滅んだ。

### 訳注

1 他た…あの。その。※「彼か」と同じ。「此この」と対比されて用い  
られている。※口語であり、「ほか」ではない。

2 (堂皇之上のうえ)之上のうえ…において。※口語であり、「の上」ではない。

3 夫それ…読者よ。※夫それの次には一般論が来て、通例「そもそも…」  
と訳すが、本文では末尾の結論を表すので、「読者よ」と意識した。

### 音読用書き下し文

楚その人は虎を謂いひて老虫ろうちゆうと為なし、姑蘇こその人は鼠ねずみを謂いひて老虫と  
為なす。余長洲よちやうしゆうに官かんし、事ことを以もつて婁東ろうとうに至いたり、郵館ゆうかんに宿しゆくす。燭しよくを滅  
し寝しんに就つくに忽たちまち碗碟わんちやく羞然しゆうぜんとして声有こえあり。余故ゆえを問とふ。閻童答こんじうへ  
て曰いはく、「老虫ろうちゆうなり。」と。余は楚その人なり、驚錯きやうさくに勝たへずして曰

はく、「城 中安くんぞ此の獸有るを得ん。」と。童曰はく、「他獸  
に非ず、鼠なり。」と。余曰はく、「鼠何ぞ老虫と名づくる。」と。  
童謂ふ「呉の俗に相ひ伝ふること爾のみ。」と。嗟嗟、鼠老虫の名  
を冒し、余をして驚錯して走げんと欲せしむるに至る。良に笑ひ  
を發するに足れり。

然るに今天下に虚名を冒し俗耳を駭かす者、少なからず。堂皇の  
上、端冕垂紳し、印累累として綬若若たる者、果たして能く邪萌を  
遏め、権貴を折き、豪強を摧かんや。牙帳の内、高冠大劍して、左  
に鉞を乗り、右に纛に杖る者、果たして能く群盜を禦ぎ、北に虜を遏  
め、南に諸夷を遏むること、古の孫呉起翦の儔の如くならんや。  
驟かに其の名を聆けば、赫然喧然たること老虫に異なる無きなり。  
徐ろに挟む所を叩けば、止だ鼠技なるのみ。夫れ鼠技を挟み、  
虎名を冒し、民の上に立つ者皆鼠輩なるに至りては、天下の事大い  
に憂ふべからざらんや！

### 解説

#### 【主張をつかむ】

#### ステップ1 最初の2行を見る

2行目の（ア）まで読める。「楚の人は虎を謂いて老虫と為し姑蘇の人は鼠を謂いて老虫と為す。余（私は）…」

## ステップ2 最後の3行を見る

オシリから 読むとわかるよ お結論 結論

結論は最後に来るので、うしろからながめる。末尾「天下の事大いに憂<sup>うれ</sup>ふべからざらんや」の「んや」はコレだけ知識の反語<sup>ぎご</sup>。正解はコレだけ知識から作られるので、訳して次のステップに行く。

## ステップ3 最終設問の選択肢を見る

早読みは 最初と最後に 主語述語 主語

結論は最後に来るので、問6の選択肢の文もうしろからながめ、主語・述語を抜き出すと次のとおり正解候補に至る。

原文 天下の事大いに憂<sup>うれ</sup>ふべからざらんや

訳 天下の事は大いに憂ふべきでないか。いや憂うべきだ。

=

=

① 主語 国家の将来が

述語 案じられる。

筆者の主張は①だろう。1行目の虎と鼠から話が始まり、①「今の朝廷の文官武官は無能なので、国家の将来が案じられる」という結論に至るのが問題文の全体像。問6はあと一つ選ぶ必要があるが、

これで十分。これが大事。正解候補が一つ選べたので、三分ルールによりここで退却。

問1ア 最初が難問でもめげないように。「こっせん忽然と消えたUFO」といった表現を知らない人には答えにくい問題。「こっせん忽然」の意味は「急に」なので、②「たちまち」が正解。

問1イ漢 サービス問題。「不レ勝レ…」たへだから①「たへずして」が正解。

問3A漢まじ漢文で「城」は「(四方を城壁に取り囲まれた)街」

だが、それを知らなくても出題者は注3で「まち町」と教えてくれているよ。そこで選択肢は①③⑤。「安」は反語だから「いづ安くんぞ…どうして…か。いや…」。「安全」と訳した①を切って、③と⑤の戦い。

「いづ安くんぞ得<sup>レ</sup>有<sup>二</sup>此<sup>一</sup>獣<sup>三</sup>」が正確に読めなくても、「こどうして此の獣有るか。いやない。」まではわかるので、⑤「いるのは当然」が負けて

③「いるはずがない」が正解。

ただし③も⑤も末尾が「ではないか」となっているので混乱するが、これは出題者のめくらまし攻撃。「ずるいではないか」||「ずるいぞ」||「ずるい!」でわかるように、「…ではないか」は「!」にあたる強調なのだ。しかも「安くんぞくん(や)」という反語自体が

強調表現なので、強調を「ではないか」と訳した選択肢は誤訳ではない。まちがった者はこれに懲りず日本語を鍛えよう。トコトンわかろうとすれば、必ず言葉は上達するよ。

問4 シテ 「使」は使役ニなので「使シム A ヲシテ (セ) B」から出発。Aに当たる言葉は「余よ」なので「余をして」はすぐわかるが、それでは選択肢はまったくしぼれないので一瞬落ち込む。さて、Bが勝負だ。

「走」は①のルビで「走にげる・走にぐ」なので、意味は「逃げる」。「驚錯」の意味は「驚く」でも「錯誤：まちがう」でも大差ない。「欲走」は漢文慣れしていれば「欲ほつス走にげんと欲す」と読める。使役におけるBは動詞でありニ、驚・錯・欲・走はいずれも動詞なので、「驚錯欲走」がBに相当。以上を組み合わせると、

余をして驚錯きょうさく 欲走 せしむ

余をして驚錯して走にげんと欲せしむ

となり②が正解。とは言うものの、私はずいぶん迷ってしまった。中国語で読むのは簡単だが、訓読はむずかしい！私も漢文の読み慣れを怠ってはダメなんだ。

問5 注 「説明・注で正解つかめ！」「ニ」の典型例。傍線Cの直後の文を注9く注13を使ってざっと訳すと、「威儀・礼装・官職・大将・高

冠・大剣・まさかり・大軍旗の者は、邪(悪な)萌(芽)を遏め・群盗を禦ぎ…んや(反語)。いや、遏めることも禦ぐこともできない。」となり「肩書は立派だが…ない」の①が正解。③は「大口をたたく」がキズ。軍においては「大将、大佐、大尉」、会社においては「社長、部長、課長」が肩書。何の肩書もないアルバイトでも「大口をたたく」ことはできるよ。

問3 D〔漢〕〔熟〕 選択肢はいずれも「その…を…みると」であり、傍線Dの次の文と合わせると次のとおり。

「その…を…みると、ただ鼠技なる耳<sup>157</sup>」。「鼠技」は「鼠ねずみのように小さい技わざ」だろうから、「技」を上下ほぼ同じ意味の熟語にして翻訳すると「技量」。すると正解は④「特技」か⑤「力量」の戦い。⑤「力量」だが、④「特技」は「技の中での特別な技」なので「特技」とは言えず、「<sup>特技</sup>技」(特技は技の一部)。したがって⑤が正解。

問2 〔対比〕 「論文は対比に注意!」の典型問題。「老虫」の内容として小さな鼠と猛獣の虎が対比されている。aは呉<sup>注1.2.3.</sup>の少年<sup>注7</sup>の発言なので鼠、bは「鼠(が)老虫の名を冒し」ているので虎。cは、cを含む文とその次の文が対比されており、整理すると次のとおり。

にはかにその名をきけば…老虫に異ことならない(老虫だ)

しかし

徐々に……………ば、ただ鼠技なるのみ。(鼠…だ)

したがってcは鼠の反対の虎となり、正解は⑤。

問6(主張) 三つのステップで①「国家の将来が案じられる」が正解だったね。

もう一つの正解を選ぶのに、私はキズを探すほかなく、少し時間がかかった。虎と鼠の対比において鼠は「ただ鼠技なるのみ。(鼠の技にすぎない)10行目」でわかるように、マイナスなのだが、②は「鼠のようにすばやく知恵が働いて」で鼠をプラスとしているので、これがキズ。③「天下を統一」は最終行の「天下の事、大いに憂ふ心配」から作ったヒツカケ。④「盗賊から…外敵から…あなどられている」と⑤「楚…から見れば、呉…は…役に立たない」は原文にない。⑥は次のとおり本文とすべて対応するので正解。

6行目 堂皇注84 国政…者

⑥「国家の重要な地位にある者」は

「行目 能くよ権力力貴族族をくじかんや。いやできない。だからこそ

⑥「相手が権力者であってもひるむことなく不正を摘発」し

89行目 能く群盗を禦ふせ(が)んや。いやできない。だからこそ



⑥ 「犯罪が起こらないように目を光らせ」

89行目 能く北に虜をとどめ、南に諸夷をとど（め）んや。い  
やできない。だからこそ

⑥ 「外敵の脅威に対し…立ち向かう気概をもたねばならない」